

市民のひろば

～明るく元気な いわき市を目指して～

今月号は、いわき湯本温泉の旅館やホテルのおかみでつくる「いわき湯本温泉湯の華会」会長の大場ますみさんに、同温泉の活性化に向けた新たな取り組みなどについて、インタビューした内容をお伝えします。

レポート 213



大場ますみさん（湯の華会会長）

Q いわき湯本温泉の活性化に向けた新たな取り組みについて、お聞かせください。

震災や原発事故により、観光客数が大幅に落ち込み、あれから四年が経過しましたが、現在でも七割程度の回復にとどまっています。

このような厳しい状況にある温泉街を、何とか盛り上げたいという思いから、今年二月に「元祖ご当地アイドル・女将たちによるカモン！いわき市いわき湯本温泉PR大作戦」をスタートさせました。

観光プロデューサーの渡部祐介さんを監督に迎え、三月末までに計四回、湯本温泉活性化に向けた企画を考える「作戦会議」を開催しました。Q 「作戦会議」の内容はどのようなものでしたか。私たちが湯の華会メンバーは、これ

まで各種催しで積極的に観光PRを行ってききましたが、今回のように、企画そのものを一から考えることは、初めての経験でした。最初は戸惑いましたが、渡部さんから、私たち自身が楽しめる企画であることや、「スモールスタート」でもとにかく一歩を踏み出すことが大切であることなど、さまざまなおかげで、みんなが熱心に自らの考えを出し合い、百を超えるアイデアが出そろいました。その中から、最終的に十以下まで絞り込みました。Q これらのアイデアはいつから実施されるのでしょうか。できるものから、どんどん実行していきたいと考えています。また、地域の皆さんとも連携・協力しながら、磨き上げを行っていく



湯の華会メンバーと観光プロデューサーの渡部祐介さん（右）

中・長期的なアイデアもありますので、今後このPR大作戦は続けていきたいと思っています。Q 今後の目標・抱負をお聞かせください。 「いわき湯本温泉の〇〇です」と名乗れば、誰もが「あの素敵な温泉街のあるところですね」「一度は、いわき湯本温泉に泊まりたいです」とおっしゃっていただけたらいいですね。また、現在開催中の「ふくしまステイネーションキャンペーン」や、今月に開催される「第七回太平洋・島サミット」、さらには二〇二〇年開催の東京オリンピック・パラリンピックなどで、いわきを訪れたお客様に、私たちが「いわきへお帰りなさい」の気持ちを込めて、おもてなししたいと思っています。



作戦会議で渡部さんのアドバイスに熱心に聞き入るおかみたち

いわきの五十年を振り返る

平（いわき）駅

いわき市の「陸の玄関」と呼ばれる「いわき駅」。昭和四（一九二九）年に改築された二代目駅舎は、昭和三十年代から何度も改築が計画されましたが、駅前広場や駅構内、駅前商店街などをどう再配置するか、

方向性が定まらず、容易に進みませんでした。

転機は昭和四十年代に訪れました。貨物取り扱いを平一内郷間のいわき貨物駅に委ね、構内の客車ホームを増やすとともに、駅舎を改築し、昭和三十年代からの懸案だった駅ビルを建設したので。時に昭和四十

いわき市は来年十月に、市制施行五十周年を迎えます。本市のこれまでの歩みを、市内各所の過去と現在の写真を比較し、エピソードを交えながら振り返ります。

八（一九七三）年のことでした。

さらに歴史は流れ、前回の改築でできなかったバス発着所の一元化、バリアフリー化に加えて、中心市街地の活性化という新たな課題に対して応えたのが、駅舎を含めた駅周辺の再開発でした。多くの人の思いと努力が詰まった駅周辺。平成六（一九九四）年の駅名改称を露払いとして、駅および駅周辺は平成十九（二〇〇七）年から翌年にかけて、名実ともに新しい「街の顔」として完成しました。

（いわき地域学會 小宅幸一）



平（現いわき）駅前と駅舎を駅前東側から見る（昭和47年11月、いわき市撮影）



現在のいわき駅前

※詳しくは市ホームページ「Facebook投稿シリーズ（いわきの今むがし）」をご覧ください。

こんにちは市長室から



世界に発信！ いわきの元気

いわき市長 清水 敏 男

東日本大震災では、原発事故も重なり、「福島」は「フクシマ」となり、報道を通して負のイメージで世界に配信され、その知名度はワールドクラスとなりました。

あれから4年。いわき市は「ピンチをチャンスに変える」べく、さまざまな取り組みをしています。特に、平成25年のプロ野球オールスターゲームの開催は、復興に向かういわきの勇気と元気を全国にアピールすることが

できました。また、今月開催される「第7回太平洋・島サミット」は、福島県初の首脳会議であり、太平洋諸国のリーダーを「おもてなしの心」でお迎えし、成功させたいと思います。さらに、来年8月には「第3回U15野球ワールドカップ」が開催され、世界の子供もたちが本市に集い、国際試合を繰り広げ、平成30年には「第10回世界水族館会議」がアクアマリンふくしまを中心に開催されます。

震災以前、本市において国際会議や国際大会等が開催されたことはほとんどありませんでしたが、これらの国際的な催しを無事成功させることにより、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致や種目開催につなげていきたいと考えています。世界の人たちに復興の姿をアピールするために！